

文 献

1) CARTWRIGHT, G. E., and WINTROBE, M. M.:
Copper Metabolism in Normal Subjects, Amer.
J. Clin. Nutr. 14: 224, 1964.

2) Reed, G. B. et al: Copper in Childhood Liver
Disease: A Histologic, Histochemical, and Chem-
ical Survey, Arch. Path., 93: 249, 1972.

乳児肝炎に於ける肝炎ウイルスの関与

日本大学病理 志 方 俊 夫
柄 沢 勉
阿 部 賢 治
高 橋 昌 子
長崎大学熱帯医学研究所防疫部門 清 水 洋 子

研究目的: 乳児の肝疾患は原因の如何にかかわらず多かれ少なかれ閉塞性黄疸のパターンを示すが、その中には組織学的に巨細胞の出現する巨細胞性肝炎、また大人の肝炎の組織像に似ている肝炎が含まれている。B型肝炎ウイルスが発見された時、これで新生児肝炎の成因は解決つくかと思われたが、このウイルスの垂直感染ではcarrier状態になるか、ごく軽い慢性肝炎像を示すことが多く、巨細胞性肝炎とは関係ないことが明らかになった。それならば非A非B型の肝炎ウイルスはどうかという事は当然考えられることである。一方非A非B型肝炎はcarrier stateが明らかになり、血液を介して伝播することからも、垂直感染とそれにつづく肝病変或いはcarrier stateがなければならない筈である。この様な点から乳児肝炎に非A非B型肝炎関与の可能性の有無を検討したいというのが究極の目的である。

又B型肝炎に関しては高力価のHBs抗体とワクチンで母親から子供への垂直感染を予防出来ないかどうか検討を行った。

成績: 乳児肝炎の肝生検例の電顕的検索では私供はこれ迄に核及び細胞質にウイルス感染に関連していると思われる特定の病変を見出してはいない。

そこで先づ清水らの報告している肝細胞核内及び細胞質内の特異な構造物が本当に非A非B型肝炎に関連しているかどうか確認する為にチンパンジーを使用して感染実験を行った。6頭のチンパンジーに非A非B型肝炎感

染ウイルス粒子を含むと思われる種々の血清又血液を接種した。そのあるものは尚経過を観察中であるが、今迄にそのうち2頭に非A非B型肝炎が発症した。この二頭はいづれもB型肝炎ワクチンを接種した後、HBe抗原陽性のB型肝炎ウイルスキャリアー血液を輸血したものに認められた。HBe抗体の出現しないこと、HBs抗体の動きなどからB型肝炎でない事は明らかで、B型肝炎ウイルスキャリアーが同時に非A非B型肝炎ウイルスを持っていたものと考えられる。

この非A非B型肝炎ウイルス性肝炎はその肝生検の電顕学的検索を行った。清水らが発表したF株による細胞質小胞体内の円柱形の構造物、又H株による肝細胞核内のウイルス様粒子も認めることは出来なかった。然し肝炎の極期の肝生検の肝細胞の核内に束になったフィラメント様構造物が認められた。このフィラメントは太さが60Å位でスピロヘーター様のウネリがあり、これが数本乃至十数本が束になって走っている。これはT抗原の形態に依っているため、共同研究者の清水がNIHで行ったチンパンジーの実験のH株感染例をみなおした所、清水が見出した核内のウイルス様粒子とこのフィラメント様構造物が極めて密接に関連していることが明らかになった。従って核内にウイルス様粒子が認められなくともこのフィラメント様構造があればH株による非A非B型肝炎と診断がつくわけである。

この様な構造又清水が記載した様な構造物の存在を乳

児性肝炎で電頭的に検討することが必要であろう。

B型肝炎ワクチンの開発は最終段階に至っており、人体への接種は昭和55年度には行はれるが、高力価のγ-グロブリンとの併用によってB型肝炎ウイルスの母親から子供への垂直感染の90%をブロック出来るものと考えられる。現在の所の具体的な方策は、HBe抗原陽性

のB型肝炎ウイルス carrier の母親から生まれ、臍帯血にHBs抗原が証明されない子供に生後24時間以内に高力価のHBs抗体を含んだγ-グロブリンを投与し、これを2カ月位の間隔で更に2回繰返し、6ヶ月を過ぎた時点でB型肝炎のワクチンを接種しようとするものである。

乳児閉塞型黄疸におけるサイトメガロウイルス感染の意義

国立駒込病院感染症科 南 谷 幹 夫
村 岡 良 昭

乳児閉塞型黄疸におけるサイトメガロウイルス(CMV)の関与の意義については不明な点が極めて多い。私は昭和52年以来3年間、新生児肝炎、先天性胆道閉鎖症をはじめ乳児閉塞型黄疸症状を呈する特発性総胆管拡張症、家族性胆汁うっ滞症などが疑われる症例よりCMVの分離を試みて乳児閉塞型黄疸の病型との関連を求めた。これらの病型のうちで、特に注目されるものは

先天性胆道閉鎖症と新生児肝炎である。新生児肝炎の原因としてCMVのほか、HBウイルス、風疹ウイルス、ヘルペスウイルスなどが知られ、すでにこれらのウイルスによる肝炎も経験しているが、従来胆道閉鎖症を形成する原因として疑われてきたCMV感染については、むしろ否定的成績を得てきた。

ここでは昭和52年より3年間にわたり、乳児閉塞型

表1 CMV Isolation and congenital biliary atresia

Case	Sex	Age	Diagnosis	Material	CMV	
					Isolation	CF-titer
1. K.T.	M	2 m 4 m	CBA	Urine	卅(7 d) +(14 d)	
2. T.O.	M	2 m	CBA	"	-(21 d)	
3. K.K.	M	2 m	CBA	"	+(18 d)	
4. M.S.	F	1 y 6 m	CBA	"	-(21 d)	
5. R.F.	M	2 m 6 m	CBA	"	-(21 d) -(21 d)	<1:4
6. U.I.	F	2 m	CBA	"	-(21 d)	1:8
7. K.K.	M	3 m	CBA	"	-(21 d)	
8. T.K.	M	2 m	CBA	"	2pfu/ml(21 d)	1:8

healthy children 99 cases(2~5 y.o.)	CMV pfu/ml				CFT
	100≤	<100~10<	≤10	—	
	0	2(2.0%)	9(9.1%)	88(88.9%)	1:13



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的:乳児の肝疾患は原因の如何にかかわらず多かれ少なかれ閉塞性黄疸のパターンを示すが,その中には組織学的に巨細胞の出現する巨細胞性肝炎,また大人の肝炎の組織像に似ている肝炎が含まれている。B型肝炎ウイルスが発見された時,これで新生児肝炎の成因は解決つくかと思われたが,このウイルスの垂直感染ではCarrier状態になるか,ごく軽い慢性肝炎像を示すととが多く,巨細胞性肝炎とは関係ないことが明らかになりた。それならば非A非B型の肝炎ウイルスはどうかという事は当然考えられることである。一方非A非B型肝炎はcarrier atateが明らかにあり,血液を介して伝播することからも,垂直感染とそれにつづく肝病変或いはcarrierstateがなければならない筈である。この様な点から乳児肝炎に非A非B型肝炎関与の可能性の有無を検討したいというのが究極の目的である。又B型肝炎に関しては高力価のHBs抗体とワクチンで母親から子供への垂直感染を予防出来ないかどうか検討を行った。